

第4回 固定資産取引 解答

第1問

仕 訳 (単位:円)				
	借 方	金 額	貸 方	金 額
1	建設仮勘定	250,000,000	現金	250,000,000
2	建 物	1,030,000,000	建設仮勘定 当座預金	250,000,000 780,000,000
3	修繕引当金 建 物 修 繕 費	500,000 600,000 900,000	未 払 金	2,000,000
4	減価償却費	900,000	車 両	900,000
5	減価償却累計額 減価償却費 貯 蔵 品 備 品 除 却 損	875,000 281,250 20,000 823,750	備 品	2,000,000
6	減価償却累計額 減価償却費 車 両 車 両 売 却 損	562,500 56,250 2,000,000 181,250	車 両 未 払 金	1,000,000 1,800,000
7	諸 資 産 の れ ん	145,000,000 1,000,000	諸 負 債 現 金	126,000,000 20,000,000
8	の れ ん 償 却	200,000	の れ ん	200,000
9	土 地 (新)	20,000,000	土 地 (旧)	20,000,000
10	取 替 費	20,000,000	当 座 預 金	20,000,000
11	未 収 金 火 災 損 失	1,000,000 1,300,000	火 災 未 決 算	2,300,000
12	減 価 償 却 費 現 金 未 収 金 固 定 資 産 売 却 損	75,000 1,000,000 2,000,000 137,500	備 品	3,212,500

解説

- (5) 除却した固定資産に処分価値があり, 廃棄せずに保管していた場合には, 「貯蔵品」勘定を用いる。

減価償却費の金額

$$(2,000,000 \text{ 円} - 875,000 \text{ 円}) \times 0.25 \times = 281,250 \text{ 円}$$

- (6) 減価償却費の金額

$$1,000,000 \text{ 円} \times 0.9 \div 8 \text{ 年} \times \frac{6 \text{ 月}}{12 \text{ 月}} = 56,250 \text{ 円}$$

- (9) 交換により固定資産を取得した場合, 同一種類の固定資産を同一用途のために交換した場合には使用の連続性を重視して, 交換に供した(相手に引渡した) 固定資産の帳簿価額を取得価額とする。

- (10) 取替法では, 取得原価は変動することなく, 取替のたびにその取替コストを当期の費用とする。

- (11) 帳簿価額の算定

$$5,000,000 \text{ 円} - (5,000,000 \text{ 円} - 500,000 \text{ 円}) \times \frac{6 \text{ 年}}{10 \text{ 年}} = 2,300,000 \text{ 円}$$

- (12) 減価償却費および帳簿価額の算定

減価償却費

$$(3,960,000 \text{ 円} + 40,000 \text{ 円}) \times 0.9 \div 8 \text{ 年} \times \frac{2 \text{ 月}}{12 \text{ 月}} = 75,000 \text{ 円}$$

減価償却累計額

$$(3,960,000 \text{ 円} + 40,000 \text{ 円}) \times 0.9 \times \frac{21 \text{ 月}}{96 \text{ 月}} = 787,500 \text{ 円}$$

帳簿価額

$$4,000,000 \text{ 円} - 787,500 \text{ 円} = 3,212,500 \text{ 円}$$

第2問

仕 訳 (単位:千円)				
	借 方	金 額	貸 方	金 額
	減価償却費(建物)	1,875,000	減価償却累計額(建物)	1,875,000
	減価償却費(備品)	636,523	減価償却累計額(備品)	636,523
	車 両	4,289,992	減価償却累計額(車両)	5,473,484
	減価償却費(車両)	1,183,492		
	減価償却費(機械装置)	1,209,600	減価償却累計額(機械装置)	1,209,600

決算整理後残高試算表 (一部)		(単位:千円)	
建物	(20,000,000)	減価償却累計額	(20,309,375)
備品	(12,000,000)		
車両	(8,000,000)		
機械装置	(6,000,000)		
(減価償却費)	(4,904,615)		

解説

(1) 建物の減価償却費



毎期の減価償却費

$$\text{耐用年数変更後 } (20,000,000 \text{ 千円} - 5,000,000 \text{ 千円}) \div 8 \text{ 年} = 1,875,000 \text{ 千円}$$

(2) 備品の減価償却費

当期において定率法から定額法に償却方法を変更するとともに、当初の耐用年数を用いて減価償却を行う。

$$(12,000,000 \text{ 千円} - 4,434,768 \text{ 千円} - 1,200,000 \text{ 千円}) \div 10 \text{ 年} = 636,523 \text{ 千円}$$

(3) 機械装置の減価償却費

$$(6,000,000 \text{ 千円} - 1,680,000 \text{ 千円}) \times 0.280 = 1,209,600 \text{ 千円}$$

第3問

	仕 訳(単位:円)			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	減 損 損 失	1,700,000	備 品	1,700,000
2	減 損 損 失	450,000	機 械 装 置 C 共 用 資 産	260,000 190,000
3	減 損 損 失	6,600,000	建 物 機 械 土 地 の れ 人	2,000,000 1,400,000 2,800,000 400,000
4	減 損 損 失	1,478,523	機 械	1,478,523
5①	備 品 リ ー ス 債 務	1,200,000 210,030	リ ー ス 債 務 現 金 預 金	1,200,000 210,030
5②	減 価 償 却 費 支 払 利 息	216,000 19,799	備 品 未 払 利 息	216,000 19,799
5③	未 払 利 息 リ ー ス 債 務 支 払 利 息	19,799 190,231 19,799	支 払 利 息 現 金 預 金	19,799 210,030
6①	機 械	1,731,792	リ ー ス 債 務	1,731,792
6②	リ ー ス 債 務 支 払 利 息 減 価 償 却 費	313,410 86,590 639,031	現 金 預 金 減 価 償 却 累 計 額	400,000 639,031
6③	リ ー ス 債 務 支 払 利 息 減 価 償 却 費	329,081 70,919 403,229	現 金 預 金 減 価 償 却 累 計 額	400,000 403,229
7① (借手)	減 価 償 却 累 計 額 現 金 預 金 長 期 前 払 費 用 備 品	750,000 4,000,000 250,000 4,000,000	備 品 リ ー ス 債 務	5,000,000 4,000,000

7② (借手)	リース債務 支払利息 減価償却費	723,899 200,000 750,000	現金預金 減価償却累計額 長期前払費用	923,899 700,000 50,000
7① (貸手)	リース債権	4,000,000	現金預金	4,000,000
7② (貸手)	現金預金 リース物件売上原価	923,899 723,899	リース物件売上高 リース債権	923,899 723,899
8	減損損失	195,034	機械	195,034

解説(単位は円)

(1) 当期末の帳簿価額

$$6,000,000 - 2,700,000 = 3,300,000$$

割引前将来キャッシュ・フロー

$$400,000 \times 4 + 100,000 = 1,700,000 \quad \text{よって減損損失を認識する。}$$

使用価値

$$(400,000 + 100,000) \div (1 + 0.03)^4 + 400,000 \div (1 + 0.03)^3 + 400,000 \div (1 + 0.03)^2 + 400,000 \div (1 + 0.03) = 1,575,688$$

正味売却価額

$$1,800,000 \text{ 円} - 200,000 \text{ 円} = 1,600,000 \text{ 円}$$

よって回収可能額は 1,600,000 円

$$\text{減損損失} : 3,300,000 - 1,600,000 = 1,700,000$$

(2)

① 個々の機械装置における減損損失の認識の是非

機械装置 A

減損の兆候はあるが、割引前将来キャッシュ・フローが帳簿価額を上回っているため、減損損失は認識しない。

機械装置 B

減損の兆候がないため、減損損失を認識しない。

機械装置 C

減損の兆候があり、割引前将来キャッシュ・フローが帳簿価額を下回っているため、減損損失を認識する。 $820,000 - 560,000 = 260,000$

② 共用資産を含むより大きな単位での減損損失の認識

共用資産にも減損の兆候があるため、共用資産を含むより大きな単位で減損損失を認識すべきかどうか判断する。

機械装置 A,B,C および共用資産 D の帳簿価額の合計額: 2,750,000

割引前将来キャッシュ・フロー: 2,500,000 よって減損損失を認識する。

減損損失: $2,750,000 - 2,300,000 = 450,000$

このうち、機械装置 C の減損損失が 260,000($820,000 - 560,000$)であるため、残額が共用資産の減損損失額となる。

(3)

① 各固定資産における減損損失認識の是非

建物: 減損損失: $2,000,000(5,000,000 - 3,000,000)$

備品: 割引前将来キャッシュ・フローが帳簿価額を上回っているため、減損損失を認識しない。

機械: 減損損失: $1,400,000(3,000,000 - 1,600,000)$

土地: 減損損失: $2,800,000(8,000,000 - 5,200,000) = 2,800,000$

② のれんを含むより大きな単位での減損損失の認識の是非

事業 A に属するすべての固定資産(のれんを含む)の帳簿価額の合計: 18,600,000

事業 A に属するのれんを含むより大きな単位での割引前将来キャッシュ・フロー(15,000,000)が帳簿価額を下回っているため、減損損失を認識。

減損損失: $18,600,000 - 12,000,000 = 6,600,000$

このうち、①により建物が 2,000,000、機械が 1,400,000、土地が 2,800,000 の減損損失を認識するため、残額はのれんの減損分である。

(4)

① 減損損失の認識の是非

帳簿価額: $12,000,000 - 5,400,000 = 6,600,000$

割引前将来キャッシュ・フロー

$1,500,000 \times 3 + 12,000,000 \times 10\% = 5,700,000$ よって減損損失を認識する。

使用価値

$(1,500,000 + 1,200,000) \times (1 + 0.05)^3 + 1,500,000 \times (1 + 0.05)^2$
 $+ 1,500,000 \times (1 + 0.05) \doteq 5,121,477$

正味売却価額

$4,500,000 - 500,000 = 4,000,000$

よって回収可能額は 5,121,477 であり、

減損損失: $6,600,000 - 5,121,477 = 1,478,523$

(5)

リース物件の取得価額：1,200,000

前払い方式である。

① 前払い方式でリース開始日の仕訳であるから、利息相当額は計上しない。

② 決算日は減価償却費と経過勘定項目（未払利息）を計上する。

$$1,200,000 \times 0.9 \div 5 \text{年} = 216,000$$

③ リース開始2年目の期首の処理である。

$$\text{利息相当額} : (1,200,000 - 210,030) \times 2\% \doteq 19,799$$

$$\text{リース債務減少額} : 210,030 - 19,799 = 190,231$$

(6)

① リース物件の取得価額

リース会社の取得原価が不明なため、リース料総額の現在価値と見積現金購入価額のいずれか低いほうの価額を取得価額とする。

リース料総額の現在価値

$$400,000 \times 4.32948 = 1,731,792$$

見積現金購入価額

$$1,800,000 \quad \text{したがって取得価額は} 1,731,792$$

② 後払い方式であるため、決算日はリース料に関する処理と減価償却に関する処理を行う。

$$\text{利息相当額} : 1,731,792 \times 5\% \doteq 86,590$$

$$\text{リース債務の減少額} : 400,000 - 86,590 = 313,410$$

$$\text{減価償却費} : 1,731,792 \times 0.369 \doteq 639,031$$

③ 基本的には②と同様。

$$\text{利息相当額} : (1,731,792 - 313,410) \times 5\% \doteq 70,919$$

$$\text{リース債務の減少額} : 400,000 - 70,919 = 329,081$$

$$\text{減価償却費} : (1,731,792 - 639,031) \times 0.369 \doteq 403,229$$

(7)

借手の処理

備品の売却と当該備品のリース取引を認識する。

$$\text{① 減価償却累計額} : 5,000,000 \times 0.9 \div 6 \text{年} = 750,000$$

売却差額は、見積市場価額の下落に起因していなければ、長期前払費用または長期前受収益として処理し、リース物件の減価償却の割合に応じて取り崩す。

$$\text{② 利息相当額} : 4,000,000 \times 5\% = 200,000$$

$$\text{リース債務の減少額} : 923,899 - 200,000 = 723,899$$

$$\text{減価償却費} : (4,000,000 - 500,000) \div 5 \text{年} = 700,000$$

$$\text{長期前払費用の取崩} : 250,000 \times \frac{700,000}{4,000,000 - 500,000} = 50,000$$

貸手の処理

通常のリースの貸手の処理に準じて行う。

- ① リース債権は、借手から買い取ったリース物件の購入価額である。
- ② リース物件売上原価はリース料から利息相当額を控除した金額である。

(8)

$$\text{帳簿価額} : 1,731,792 - (639,031 + 403,229) = 689,532$$

$$\text{割引前将来キャッシュ・フロー} : 100,000 \times 5 + 60,000 = 560,000$$

したがって、減損損失を認識する。

使用価値

$$(100,000 + 60,000) \div (1 + 0.04)^5 + 100,000 \div (1 + 0.04)^4 + 100,000 \div (1 + 0.04)^3 \\ + 100,000 \div (1 + 0.04)^2 + 100,000 \div (1 + 0.04) \doteq 494,498$$

$$\text{正味売却価額} : 500,000 - 10,000 = 490,000$$

$$\text{回収可能価額} : 494,498$$

$$\text{減損損失} : 689,532 - 494,498 = 195,034$$